

第4回中国四国男女共同参画シンポジウム 記録集

文部科学省科学技術人材育成費補助金「女性研究者研究活動支援事業」

ワーク・ライフ・バランス



開会 13:20～13:40 (開場 12:30)

開会挨拶 香川大学長／長尾 省吾

来賓挨拶 香川県知事／浜田 恵造

板倉 周一郎 (文部科学省科学技術・学術政策局)

基調講演 13:40～14:40

「次はあなたの出番よ！」

～女性研究者支援事業の意義と事業終了後の継続～

講師／小笠 香椎子

日本女子大学名誉教授

科学技術振興機構男女共同参画主幹

実証交流 14:40～15:30

●発表者

内田 由理子 (香川高等専門学校教授)

坂田 桐子 (広島大学男女共同参画推進室室長)

沖 陽子 (岡山大学ダイバーシティ推進本部 男女共同参画 室長)

野依 智子 (国立女性教育会館 研究促進室研究員)

●司会

板倉 周一郎 (文部科学省科学技術・学術政策局)

パネルディスカッション 15:40～17:20

「大学は一步先行くロールモデル！」

～おひとり子育てから子育てのステップへ～

●パネリスト

阪間 穂 (津島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部准教授)

坂本 玲美 (東京大学先端研究学術推進機構上級研究員センター研究員)

小川 雅廣 (香川大学農学部教授)

山本 裕子 (産業技術総合研究所 四国センター特別研究員)

中橋 恵美子 (NPO法人わははネット理事長)

●コーディネーター

板野 俊文 (香川大学農学部研究担当理事)

●モデレーター

板倉 周一郎 (文部科学省科学技術・学術政策局)

閉会 17:20～17:30

閉会挨拶

高木 健一郎 (香川大学男女共同参画推進室室長)

ポスターセッション 12:30～13:20

「ともに協働環境の構築へ」 中国四国地域の未来を拓く

第4回中国四国 男女共同参画 シンポジウム

仕事を辞めずにキャリアアップ



男だから女からではなく、自分らしい生き方やパートナーシップを大切にしたい。中国四国の地域の活性化にむけて、大学、企業、行政、市民が、男女共同参画の視点に立って、地域の明るい未来を拓く人材を育てていくためのシンポジウムです。

かがわ国際会議場
高松シンボルタワー タワー棟6階
(香川県高松市サンポート2番1号)

主催：国立大学法人香川大学

共催：鳥取大学・島根大学・岡山大学

広島大学・山口大学・徳島大学

徳門教育大学・愛媛大学・高知大学

後援：内閣府男女共同参画局／科学技術振興機構／
国立大学協会／国立女性教育会館／
男女共同参画学協会連合会／
産業技術総合研究所／
農・食・産業技術総合研究機構／香川県／
高松市／香川県各女性団体協議会／
香川経済同友会

国立大学法人香川大学
男女共同参画推進室 olive・heart

平成24年
11/30
FRI
13:20～17:30

第4回中国四国男女共同参画シンポジウム ランチ交流会

アリスインたかまつ



第4回中国四国男女共同参画シンポジウム

2012. 11.30 かがわ国際会議場

開会式



基調講演「次はあなたの出番よ！～女性研究者支援事業の意義と事業終了後の継続～」小館香椎子先生



・データを交え、現状と今後の方向性について、分かりやすく教えていただくことができた。小館先生ご自身が非常に精力的にご活躍なさっており、その姿自体が1つのロールモデルとして参考になった。(感想)



石井副室長の講師紹介



実践交流

内田由理子先生(香川高等専門学校)



坂田桐子先生(広島大学)



沖陽子先生(岡山大学)



野依智子先生(国立女性教育会館)



パネルディスカッション

「大学は一步先行くロールモデル～おひとり様育児から共育てのステップへ～」



様々な立場のそれぞれの方が抱える具体的な話が聞けて、問題を身近に感じることが出来ました。それぞれの方が思う解決策も聞けて良かったです。ワーク・ライフ・バランスの実現の難しさ、教育支援の大切さを改めて感じました。(感想)



終始和やかなディスカッションが会場の共感呼びました。



制度が進んでいく中で、研究も子育ても両立できる環境が構築される。

閉会式



・中国四国地域の連携の実際を知ることができて良かった。旧帝国大学の取組みとは違う、地元に着目した大学の取組みをさらに知りたいと思った。・とても参考になりました。継続してってください。(感想)

室員によるポスターセッション



ポスターに見入る香川大学長尾学長と愛媛大学壽副学長



ポスターセッションの全景 1



ポスターセッションの全景2



ゲストに説明する男女共同参画推進室室員の先生方

各部局ボスターと室員の先生方



各部局ごとに取り組みをまとめ 12 枚のポスターが仕上がりました。

[感想拔粹]

- ・特に香川大学の多様な取組みが参考になりました。
- ・香川大学の各学部取組みを当事者に話していただくことが有意義でした。
- ・香川大学さんが、各学部取組みをポスター展示し、客員の先生方も説明に立たれていたのが印象的でした。
- ・香川大学さんが学部ごとにポスターを作り、まとめていらっしゃり大変興味深く拝見しました。
- ・大学での取組みが詳しく示されており、きめ細やかな取組み状況が分かりました。
- ・丁寧に説明していただき理解が深まりました。

第4回中国四国男女共同参画シンポジウム

会場:かがわ国際会議場

時間:13:20~17:30

参加人数: 122(学外:63 学内:59 /女性:78 男性:44)

回収数:

44 女性:27 男性:17

20代:3 30代:10

学外教員:17

学内教員:3

40代:14 50代:11

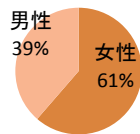
学外職員:14

学内職員:4

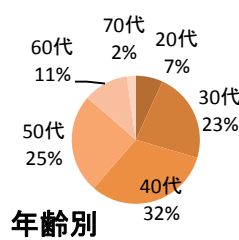
60代:5 70代:1

行政職員:5

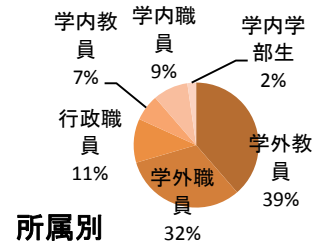
学内学部生:1



参加男女比



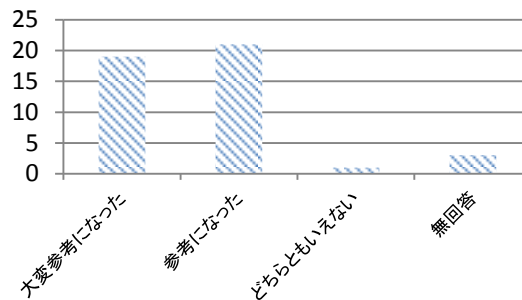
年齢別



所属別

(1)シンポジウムについて

大変参考になった	19
参考になった	21
どちらともいえない	1
無回答	3



(3)感想

【基調講演】

- ・「何で女性教員30%なのか」そもそもなぜ「男女共同参画」なのかを正しく知ることが出来ました。男性から「ただの女性優遇ではないか」と言われた時に、きちんと説明できる人を増やしていく事、それが大事なのではないかと思います。
- ・女性研究者への支援も大切な反面、女性研究者自身のパワーも重要であることがよく分かりました。
- ・男女共同参画の全体をまとめていただき、分かりやすかったです。
- ・とても良かったです。お話自体が「理工系に進んだら面白そうだ」と思わせるに十分。資料にないパワーポイントが何枚かありました。あのパワポが欲しい。
- ・男女共同参画の将来行きつくステージを明確に提示して頂き、日頃目標にしている内容が確認できてよかったです。
- ・小館先生の経験・先見性が発表によく出ている。
- ・非常に内容が濃いと思います。今後の指針となるお話だったと思います。政策を作る、及び行政の関係者に十分理解して頂きたいと思います。
- ・よく分かりました。
- ・とても具体的で有益な情報をいただきました。
- ・うまくまとめられていて今後の施策の為になります。
- ・大変参考になった。
- ・事業終了後の男女共同参画推進(特に女性研究者支援)のあり方に関するヒントをいただき、非常に良かった。
- ・小館先生の話は日本全体の状況がよく分かった。
- ・実体験に基づく貴重な話が聞けた。(厳しい状況の中で取り組んでいる)
- ・データを交え、現状と今後の方向性について、分かりやすく教えていただくことができた。小館先生ご自身が非常に精力的にご活躍なさっており、その姿自体が1つのロールモデルとして参考になった。
- ・今では女性研究者育成・支援がスポットを当てられていますが、小館先生が若手研究者の頃は男性研究者に混ざった大変な苦勞があったと思います。
- ・普段生活している中で、あまり触れることのない女性研究者の現状・取組み・課題を知ることができ、大変勉強になりました。恥ずかしながら、技能を持った方がこんなにも不安定な状況にあることを知りませんでした。
- ・女性研究紛争者としてのみならず、働く女性のロールモデル。
- ・女性研究者のempowermentの為に、大学のリーダーが今こそ力を発揮すべき時であることを感じました。
- ・具体的で内容の深さがあり、参考になった。P. D. Aに取り入れて、少しでも取り入れていきたい。
- ・女性研究者支援の取組みのヒントを多くいただくことが出来ました。
- ・女性リーダーを増やすことで、今の置かれた状況を正すことがなかなか受け入れられないけれど、パイオニアであり続けるしかないでしょうね。
- ・長年、女性研究者を育てていらした小館先生のメッセージが伝わりました。
- ・女性研究者支援の必要性和、今後期待される取組みがよく分かりました。

・女性研究者としてのロールモデルを目の当たりにした印象である。いろいろな具体的な取組みや将来像を知ることができて、本校の男女参画の取組みに役立てると思う。実践交流の香川高専の取組みが分かりやすかった。
・リーダーシップの育成の部分に大変興味を持ちました。小舘先生の御苦勞話をもっと伺いたかったです。
・多岐に渡る話が参考になりました。
・面白かったし、励みになりました。理工系女性研究者をメインにお話されたのが良かった。
・事業終了後に取り組みべき課題と難しさを
・事業終了後の継続というテーマについて、とても参考になった。また、他大学、高専の先進的な取組みはとても興味深かった。
・女性研究者の支援について、全国的に国立大学が積極的に取り組んでいることに、感銘を受けました。
・男女共同参画に関する大学や学協会、政策動向の最新情報が分かり、大変参考になった。
【ポスターセッション】
・まだ子どもはおりませんが、結婚して働き方変わりました。子どもができて、今日のような取組みを支えに頑張っていきたいと思いますし(研究者ではありませんが)、子どもが成長して、理系のことを学びたいと思った時に、自由に学べるような社会を作っていきたいです。
・他大学の取組みがよく分かって大変参考になりました。
・どの大学も、取組みに力を入れていることが伝わりました。ただ、ポスター前に人がいなかったの、聞きたいことが聞けなかった。
・時間が無かったので拝見するだけで済ませるポスターが多かったように思います。やはり、コミュニケーションがとれるプログラムの方が良いかと思いました。
・表示場所など内容もよくまとまりがあって良かった。
・他大学の取組みが分かって良かったです。(→希望:資料として手元に欲しかったです。印刷してもらえると嬉しいです。)
・多くの大学の取組み状況がよく理解できた。理系の女性教員増加は課題であること。
・ポスターをプログラムに印刷したものをいただくと、よりありがたかった。
・各大学とても分かりやすくまとめてあった。
・各大学・学部取組み状況がよく分かった。
・それぞれの大学で課題は何かを明確にし、熱心に取り組んでいる様子がよく分かりました。
・ポスターの前で先生たちが立って説明してくれるのは初めて。
・香川大学の各学部の取組みを当事者に話していただくことが有意義でした。
・特に香川大学の多様な取組みが参考になりました。
・香川大学さんが、各学部の取組みをポスター展示し、客員の先生方も説明に立たれていたのが印象的でした。
・丁寧に説明していただき理解が深まりました。
・全国の大学等の取組みを見れて知れて良かった。リーフレット・パンフレットがあって持ち帰れて良かった。
・香川大学さんが学部ごとにポスターを作り、まとめていらっしゃり大変興味深く拝見しました。
・女性研究者のロールモデルを広めていくことの大切さを再認識した。
・ポスターによって各大学の取組みが目に見えて分かり良かったです。
・大学での取組みが詳しく示されており、きめ細やかな取組み状況が分かりました。
【パネルディスカッション】
・実体験のお話は興味深かったです。「男性は5歳児だと思え」が私の身上ですが、やっぱりな…と。(笑)けれど1人が2人になったことで物の見方が変化したり、広がったりした実感があります。世界には男と女しかおらず、自分と他人しかおりません。子育ても、家庭生活も、1人ではなくて2人で、みんなでしているという気持ちで過ごしていきたいと思いました。
・皆様の貴重な子育て術でお伺いすることができて、大変参考になりました。
・生々しい声が聞けて良かった。ただ、どのように活かしたらよいか難しかった。研究か子どもか、どちらか一方に重点を置かないと、どちらもだめになってしまうのでは?2人目は難しいのかな、と思います。任期無しの職に就かないと育児が難しいという点だと思います。
・槻木先生の話:私の高専にも遠距離夫婦がいました。どちらも夫の賀妻の近くの職場近くへ去りました。人材流出です。中橋先生の話:お母さんの苦勞話が切実、共感しました。
・若い方々のパネラーで話題が面白かったです。ただ、個人的な要求を満たすことだけではなく、もう少し具体的な解決策が提案できればさらに良かったのではないのでしょうか。
・各パネラーの発表が全体の中でバランスが取れていた。現実味があってとても良かった。
・働く女性や子育て夫婦にとって元気づけられる内容と思いました。
・テーマが良くなかったと思います。「個人がどう両立するか?」ではなく、「大学で男女共同参画を進めるにはどうすればいいのか?」についてのディスカッションを是非聞きたかったと思いました。「大学による支援」について、ほとんど触れられていなくて参考になりませんでした。
・中橋氏の話から行政からではなく、当事者から声を上げて子育ての環境を整えることの必要性を感じた。
・パネリストの人選が良かったと思います。(多様な視点からの話が聞けたので)
・実体験を正直に話してくれた点が良かった。それぞれの方が苦勞され工夫し子育てされている。
・板倉課長の言われた事です、研究者の困り感の中でポイントを絞ってディスカッションした方が良かった。
・各先生方の苦勞した経験を聞くことができ、参考になった。
・若手の女性研究者の求める支援が聞けて良かった!またこのような男性が増えてほしいと思いました。
・様々な立場のそれぞれの方が抱える具体的な話が聞けて、問題を身近に感じる事が出来ました。それぞれの方が思う解決策も聞けて良かったです。ワーク・ライフ・バランスの実現の難しさ、教育支援の大切さを改めて感じました。
・男性研究者・女性研究者・子育て支援に関わる方の生の声、心の底からの悩みを聞かせていただきました。これらの課題に正面から取り組むことにより、変革の方向を見出していきたいと思いました。
・女性研究者が悩む“育児”について男女研究者による“一人子育て・共育”は、就業環境、意識の改革には大きなインパクトを与えたのではないのでしょうか。
・各人の工夫で対応しているノウハウを共有できるだけでも、サポートになると思いました。周囲の理解も巻き込んでいくことで次第に良い方向に行く気がしました。

・多様なメンバーによる話が面白く、また勉強になった。皆さんの本音トークに考えさせられました。
・子育てと仕事(研究)の両立をどうするか、多くの課題が見えました。
・とても生々しいそれぞれの方の事例を聞けて、現実の深い問題を目の当たりにすることができた。板倉さんも言っているように、パネリストの皆様に敬意を表します。本校でもしっかりと推進していくべきとの信念が湧いた。とても有意義でした。
・各先生方の率直なお話に、学ぶところが非常に多かったです。本当にありがとうございました。小川先生の話に涙しました。
・様々な立場の方の生き方、取組みは参考にしたいと思います。
・時間が長かったけど、話が濃厚だった。
・直面している問題は何か、具体的に気づかされました。
・子育てをしながら研究等を続けておられるパネリストの皆様のご苦勞に、身につまされる思いがいたしました。
・パネリストの先生方がとても個性的で話に引き込まれました。とても良かったです。
・実体験に基づいた各先生の貴重なお話が聞けて良かったです。子育てしながら働く女性は時間を増やすサポートがあれば強い後押しになるという話には、実感として納得です。
【中国四国男女共同参画シンポジウム全体について、今後取り上げてほしい内容など】
・男女共同参画に取組める立場ではありませんが、お手伝いは出来るかと思いました。
・基盤をどうするか。(「夫は何もできない」前提を変えるべきでは?)、「生活技術力」の向上(衣食住等家事全般とか「男女に限らず介護」も共通)、「ワークライフバランス」と言っても基本的なワザが身についてなければバランスのとりようがない。「技術→意識の変化」の方を重視すべきではないか?「意識の啓発」だけでは限界があると思う(特に日本では)、これからの家庭を持つ若年層の教育が大事だと思う。(「共働きの1日スケジュール」とか「困ること」「突発的事態」「対応の仕方」とか「1週間の(手抜き)料理献立」とか)。
・大学のみならず、企業や公的研究機関の実態を取り上げていただきたい。
・中国と四国の連携が他の地域から見て「その特色」がうらやましく思えました。継続性を期待します。
・大学間の具体的な連携の検討(年1回のシンポジウムに終わるのではなく)。板倉課長が最後までいてコメントしていたことは評価します。
・実際に大学で男女共同参画を進める中での困難や、それをどう乗り越えてきたのか、について事例を基に聞きたいです。
・学生、大学院生からの視点の男女共同参画について、話を聞くような機会があればよいと思います。
・女性のリーダーシップ(研究面、マネジメント面双方で)をどのように育成するか。
・事業終了後の持続的支援の展開について、選考大学の成功例や課題について発表などディスカッションして欲しい。
・先進大学(広島・岡山等)の効果的だった具体的な取組みをもっと詳しく紹介してほしいと思いました。
・理系の方のお話为中心なので(予算の性質上仕方ない側面もあるが)人文社会系の研究者の課題も取り上げてほしい。
・女性研究者のテニュアトラックについて。(出産・育児での休業等)
・産官学の協働について。
・大学間で連携することにより、初めてできる取組み、地域との連携で実現できること。
・①ほかの地域とのネットワークをどのようにしていくか。特に女性研究者情報(就業等)の入手の為に考えていただきたい。②“一人子育て・共育で”の次は“一人介護・共介護”を中堅女性研究者の為にもし取り上げ、ぜひパネルディスカッションをして頂きたいと思います。
・香川高専の先生やNPOの方など新鮮な話が聞けて良かった。私も次回はカニが食べたいです。
・育児・介護の社会化。社会的基盤の構築。(研究者だけの問題解決に留めず、社会的基盤を整えないと、日本の育児負担も少子化問題も大きな改善は望めないと思いました。)
・とても参考になりました。継続してってください。
・やはり本音で語り合えるのが良いですね。本日はありがとうございました。
・各参加者のPRの場を増やして欲しい。(ex.1つのテーマに付き、ポスター等で発表できる場など)
・支援研究員制度、民間の取組み事例
・自治体や民間企業の実践、取組みの紹介があっても良いと思います。
・中国四国地域の連携の実際を知ることができて良かった。旧帝国大学の取組みとは違う、地元に着目した大学の取組みをさらに知りたいと思った。
・テーマを大きく変えずに継続して行う方が良いと考えます。



発行 香川大学男女共同参画推進室
〒760-8521 香川県高松市幸町 1 - 1
sankaku@ao.kagawa-u.ac.jp
<http://www.kagawa-u.ac.jp/sankaku>